

### Ⅲ. 中高年齢船員の労働力活用に関する調査研究

#### 目 次

第1部 退職船員に対する調査	60
A 調査の概要	60
B あなた自身のことについて	61
C あなたの現在の状態について	62
D 非就労者の年金と生活について	66
E 就労者の労働と年金と生活について	67
F 今後の考えについて	68
G ま と め	73
第2部 現役船員に対する調査	75
A 調査の概要	75
B あなた自身のことについて	75
C あなたの雇われ方について	76
D 今後の内航船員としての見通し	77
E 年金受給年齢前後の考え方について	79
F ま と め	83
第3部 内航海運事業者に対する調査	85
A 調査の概要	85
B 事業者について	85
C 船員状況について	86
D 後継者や船員の補充について	89
E 中高年齢船員の活用について	92
F ま と め	96

#### はじめに

海上労働力不足の緩和及び船員の休暇取得促進並びに中高年齢船員の雇用の促進に資するため、中高年齢船員の意識を把握するとともに、併せてそれら船員を雇用する側の意識を調査し、今後の労働力活用対策の策定に必要な基礎的資料を得ることを目的とする。

#### 第1部 退職船員に対する調査

##### A 調査の概要

###### 1 調査の目的

調査目的の一環として、退職船員の就業、生活、老齢年金の受給状況、年金受給に関する意識、現在の労働意欲、就業意識（就業期間、就業先、収入）を調査することにある。

###### 2 調査対象

現在、船員職業を廃業したとみられる元内航船員を調査対象にすべきである。しかし、それらの氏名、住所の捕捉は容易ではない。

そこで、全日本海員組合の協力を得て、その離職登録組合員名簿（登録期間は、原則として離職後3年）から、現在年齢55歳以上の離職登録組合員を抽出し、調査対象とした。その抽出数は、1,077人となった。

###### 3 調査方法

調査票を上記対象者各自に郵送し、記入した調査票を、弊所まで返送させた。

## 第2部 現役船員に対する調査

### A 調査の概要

#### 1 調査の目的

調査目的の一環として、現役船員の就業、定着、老齢年金の受給に関する意識、老齢年金受給後の就業意識(就業期間、就業先、収入)を調査することにある。

#### 2 調査対象

内航船(100総トン以上の鋼船)に乗組む、すべての年齢の船員1,500人を対象とする。その調査対象を、日本海運集会所「内航船舶明細書」から抽出したところ、101社、226隻、1,521人となった。

#### 3 調査方法

調査票をまとめて上記対象会社に郵送し、当該会社から各船に転送を仰ぎ、乗組員が記入した調査票を、弊所まで返送させた。

調査票は、1993年4月中旬に発送し、同5月

中旬をめどとして、回収した。

#### 4 回収状況と有効資料

回収された調査票は、隻数において143隻、人数において788人であった。それらの回収率は、それぞれ63.3%、51.8%である。

### B あなた自身のことについて

#### 1 現在年齢(表1)

平均年齢は46.5歳である。構成比率のうち、55-59歳14.6%、60-64歳4.2%、65歳以上1.1%、合計19.9%となっている。無回答6.1%を考慮すると、その比率は21.1%となる。

#### 2 職種(表略)

船長航海士35.9%、機関長機関士32.7%、甲板部員17.5%、機関部員5.5%、司厨部員6.5%、その他0.9%となっている。職員は、全体の68.6%を占める。

#### 3 居住地(表2)

その上位5位は、九州45.2%、四国18.7%、

(単位: %, 人, 歳)

表1	現在年齢									合計
	29歳以下	30-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65歳以上	無回答	
職種										
船長航海士	4.2	18.4	17.7	17.0	20.5	13.4	3.5	1.4	3.9	100.0
機関長機関士	1.6	14.7	16.7	18.6	20.9	17.1	5.0	1.6	3.9	100.0
甲板部員	11.6	13.8	13.0	15.2	15.9	14.5	3.6		12.3	100.0
機関部員	18.6	9.3	7.0	14.0	16.3	18.6	7.0	2.3	7.0	100.0
司厨部員	2.0	7.8	23.5	23.5	27.5	7.8	2.0		5.9	100.0
その他		28.6		14.3	14.3	14.3			28.6	100.0
無回答			25.0	25.0	12.5		12.5		25.0	100.0
人材センター										
登録もいい	4.0	17.4	17.7	19.4	19.4	12.0	3.3	.7	6.0	100.0
登録しない	3.1	13.4	14.4	16.5	17.5	21.6	6.2	2.1	5.2	100.0
どちらとも	6.1	14.0	17.2	16.2	22.0	14.0	4.1	1.0	5.4	100.0
無回答	9.0	12.8	9.0	16.7	16.7	17.9	5.1	2.6	10.3	100.0
合計	5.2	15.1	16.2	17.5	19.9	14.6	4.2	1.1	6.1	100.0

東北10.4%(以上、74.3%)、中国6.6%、中部5.5%(以上、86.4%)となっている。特定の地域に、かなり集中している。

### C あなたの雇われ方について

#### 4 雇主との地縁関係(表3)

同一市町村17.9%、同一県内20.7%、ちがう県60.4%となっている。

居住地別では、かなりの違いがあり、同一市町村の比率が最も高いのは神戸42.1%であり、逆にちがう県の比率が低いのは東北93.9%、九州69.1%である。

それは、居住地が神戸の船員は地元就業率が高く、東北あるいは九州の船員は県外就業率が高いことを示す。

#### 5 平成4年中の賃金、年金、その他の収入(表略)

##### ① 年間総収入

平成4年中の賃金、年金、その他の収入の記入を仰いだところ、平均547.0万円となった。

##### ② 年間賃金収入

年間総収入のうち、賃金収入に限ってみると、平均543.5万円となった。その額は、年間総収入を、若干下回るにとどまる。

##### ③ 年間年金収入

後出Q26において、55歳以上であって、年金を受給している船員は29人となっているが、そのうち回答した船員17人の年間年金収入は、平均229.5万円となった。

(単位: %, 人)

表2	居住地											合計	実数
	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	神戸	中国	四国	九州	無回答		
合計	2.2	10.4	.9	5.1	5.5	1.1	2.4	6.6	18.7	45.2	2.0	100.0	788

(単位: %, 人)

表3	雇主との地縁関係				合計	実数
	同一市町村	同一県内	ちがう県	無回答		
居住地						
北海道	35.3	11.8	52.9		100.0	17
東北	1.2	4.9	93.9		100.0	82
新潟			100.0		100.0	7
関東	20.0	30.0	45.0	5.0	100.0	40
中部	23.3	32.6	44.2		100.0	43
近畿			100.0		100.0	9
神戸	42.1	31.6	26.3		100.0	19
中国	34.6	26.9	38.5		100.0	52
四国	25.9	34.7	39.5		100.0	147
九州	13.2	16.0	69.1	1.7	100.0	356
無回答	31.3	18.8	50.0		100.0	16
合計	17.9	20.7	60.4	1.0	100.0	788

## 6 本船船主との継続雇用意志（表略）

引き続き雇われていたい58.3%、いいところがあれば変わってよい34.6%、すぐにでも変わりたい2.4%となっている。

年齢別では、それが高くなるにつれ、引き続き雇われていたいの比率が高まる。職種別では、甲板部員の引き続き雇われていたいの比率が低い。

居住地別では、かなりの違いがある。引き続き雇われていたいの比率が高いのは神戸80.0%、それが低いのは東北48.6%である。雇主との地縁関係別では、ちがう県の引き続き雇われていたいの比率が低い。

## 7 下船交代の乗船期間

（表略 下船交代要員のみ、以下同じ）

すでにみたように、下船交代要員の実数は28人である。そのうち、年齢では55-59歳が8人、60-64歳が4人、65歳以上が2人と多い。職種別では、全職種にまたがって配置されている。居住地別では、九州が12人と多い。雇主との地縁関係では、同一市町村1人、同一県内9人、ちがう県16人となっている。こうした下船交代要員の本船における乗船期間は、平均68.8日となっている。しかし、そのばらつきは大きい。

## 8 下船交代要員となった理由（表略）

船主に頼まれたから46.4%、乗組員に頼まれたから7.1%、知合いに頼まれたから21.4%、自分から探して乗船した14.3%、その他10.7%となっている。この場合、職安から紹介されたからは、ない。

## 9 下船交代の年間乗船回数日数（表略）

年間回数は平均3.6回となっている。そのばらつきは大きい。また、年間乗船日数は平

均106.7日である。そのばらつきは大きい。

## 10 本船雇主での乗船回数（表略）

前記年間回数平均3.6回のうち、本船雇主での乗船回数は、20人しか回答していないため、それを上回る平均3.7回となっている。年間、同一雇主において、下船交代要員として働いていることになる。

## 11 下船交代要員でえた年間賃金（表略）

下船交代要員として働いたことでえた年間賃金は、平均226.4万円となっている。そのばらつきは大きい。年間乗船日数を考慮して、年間賃金を月間賃金に換算すると、平均27.8万円となる。

## 12 下船交代要員として働く理由（表略）

船主などに頼まれたから35.7%、生活費を増やしたいから46.4%、こづかい稼ぎのため10.7%、体をなまらさないため17.9%、生活にハリを持っていたい14.3%、能力を生かしたい3.6%、その他14.3%となっている。金銭的理由を中心にして、船主依頼と生きがいとがないまぜになっている。

## D 今後の内航船員としての見通し

### 13 内航船員としての職業満足度（表略）

大変、満足している4.6%、一応、満足している39.8%、なんともいえない32.2%、少々、不満である15.9%、大変、不満である5.6%になっている。

雇主との地縁関係では、同一市町村の船員はちがう県よりも、職業満足度が高い。人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員は登録しないとする船員よりも、職業満足度は低い。

#### 14 内航船員職業の継続意志（表略）

近いうちにやめる9.3%、しばらく続ける36.4%、何歳くらいまで働く53.6%となっている。後者の主な年齢は、55歳まで27.5%、60歳まで41.2%となっており、平均58.5歳である。

#### 15 内航船員をやめた今後（表4）

前問において、近いうちにやめるを選んだ船員は、今後どうするつもりかについては、内航以外の船員として働く2.7%、陸上の職業につく26.0%、年金生活に入る61.6%、その他9.6%となっている。

#### 16 内航船員として再度働く意志（表5）

同様の船員にあって、条件さえととのえば、内航船員として働いてもいいかどうかについては、再度、働いてみてもよい34.2%、再度、働くつもりはない15.1%、なんともいえない35.6%となっている。

いったん内航船員をやめても、完全に廃業したことにしていないかのようである。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員の再度、働いてみてもよいの比率は、当然のこととして、57.9%と高い。

（単位：%，人）

表4	内航船員をやめた今後				合計	実数
	非内航の船員	陸上の職業	年金生活に入る	その他		
現在年齢						
29歳以下		100.0			100.0	2
30-39歳		100.0			100.0	6
40-44歳	25.0	75.0			100.0	4
45-49歳		50.0		50.0	100.0	2
50-54歳		40.0	40.0	20.0	100.0	5
55-59歳		13.8	69.0	17.2	100.0	29
60-64歳			100.0		100.0	12
65歳以上			100.0		100.0	6
無回答	14.3	14.3	71.4		100.0	7
合計	2.7	26.0	61.6	9.6	100.0	73

（単位：%，人）

表5	内航船員として働く意志				合計	実数
	働いてもよい	働かない	なんとも	無回答		
人材センター						
登録もいい	57.9	10.5	26.3	5.3	100.0	19
登録しない	18.8	25.0	31.3	25.0	100.0	16
どちらとも	36.4		54.5	9.1	100.0	22
無回答	18.8	31.3	25.0	25.0	100.0	16
合計	34.2	15.1	35.6	15.1	100.0	73

17 当面、船員を続ける理由（表6）

Q22において、しばらく続ける、および、何歳くらいまで働くを選んだ船員が、船員を続ける理由は、働かないと生活できない46.7%、年金の資格がえられるまで9.3%、選んだ職業だから続ける24.0%、遊んでいても仕方がない13.0%となっている。

年齢別では、当然、年齢によって回答が異なってくるが、55歳以上に限ってみれば、55-59歳は働かないと生活できないの比率が高く、逆に60-64歳は選んだ職業だから続けるや遊んでいても仕方がない比率が高くなっている。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員の働かないと生活できないの比率が、52.5%と高い。

E 年金受給年齢前後の考えについて

18 年金受給の有無（表略）

55歳以上の船員についてみると、年金を受給しているの比率は、55-59歳6.1%、60-64歳27.3%、65歳以上88.9%となっており、その実数は29人である。

その受給年金の種別は、老齢厚生年金27.6%、在職中の年金24.1%、厚生基礎年金37.9%、その他10.3%となっている。

19 55歳以上の身の処し方（表7）

55歳未満の船員が55歳以上になったとき、現役として働くか、それとも年金を受給するかについては、当分、現役として働きつづけ、年金は受給しない37.6%、賃金がよければ、年金が停止されたとしても働く32.2%、いっさい働かず、年金を受給しつづける15.3%、その他7.4%となっている。55歳といった年齢では、賃金と年金を勘案しながら、当面、

（単位：%，人）

表6	当面船員を続ける理由						合計	実数
	生活できない	年金資格まで	選んだ職業だ	遊んでいても	その他	無回答		
現在年齢								
29歳以下	18.4	2.6	55.3	18.4	2.6	2.6	100.0	38
30-39歳	45.1	8.8	30.1	7.1		8.8	100.0	113
40-44歳	57.3	6.5	24.2	5.6	.8	5.6	100.0	124
45-49歳	55.9	9.6	22.1	4.4		8.1	100.0	136
50-54歳	46.1	19.1	14.5	15.8	.7	3.9	100.0	152
55-59歳	43.4	4.8	19.3	22.9	2.4	7.2	100.0	83
60-64歳	25.0		35.0	40.0			100.0	20
65歳以上			33.3	33.3		33.3	100.0	3
無回答	37.5	2.5	22.5	30.0	2.5	5.0	100.0	40
人材センター								
登録もいい	52.5	8.3	23.0	10.1	1.8	4.3	100.0	278
登録しない	37.5	15.0	23.8	15.0	1.3	7.5	100.0	80
どちらとも	44.9	9.6	24.0	15.1		6.5	100.0	292
無回答	40.7	5.1	28.8	13.6		11.9	100.0	59
合計	46.7	9.3	24.0	13.0	.8	6.2	100.0	709

働きつづける意志が強い。人材センター登録  
意志別では、登録してもいいとする船員の現  
役で働くか、賃金次第で働くの比率は、登録  
したくない船員に比べ、高い。

20 55歳以上で年金を受給してしない理由  
(表略)

55歳以上の船員が年金を受給してしない理  
由については、年金より、賃金の方が多いか  
ら19.1%、年金だけでは、暮らしていけない  
から30.6%、働きながら年金を受給したいが、  
年金が停止、減額されるのがいや7.6%、受  
取る年金額を上げたいから11.5%、年金を  
受給する資格が足りないから4.5%、その他3.  
8%、無回答22.9%となっている。

21 何歳から年金を受給するか(表略)

それでは、何歳から年金を受給するかにつ  
いては、無回答が多く、決めかねているが、  
平均は60.9歳となっている。

22 老齢厚生年金を受給しながら働く条件

老齢厚生年金を受給しながら、内航船員と  
して働く条件について、いくつか質問した。

① 雇われたい船主(表略)

同じ市町村の船主が望ましい18.7%、同じ  
県内の船主が望ましい17.0%、ちがう県の船  
主でもよい53.2%となっている。

雇主との地縁関係別では、同一市町村の船  
員の同じ市町村の船主が望ましいの比率が53.  
2%、また同一県内の船員の同じ県内の船主  
が望ましいの比率が40.5%と高い。

すなわち、近隣に船主が所在している場合、  
それとの地縁関係を望んでいることなる。し  
かし、内航船員の主要な居住地である四国や  
九州の船員にあっては、必ずしもそうではな  
く、ちがう県の船主でもよいとしている。

② 乗船したい船種(表略)

貨物船52.9%、砂砂利専用船22.5%、タン  
カー4.1%、ケミカルタンカー1.6%、その他  
10.5%となっている。

この構成は、内航船の実態、貨物船59.8%、  
砂砂利専用船11.0%、タンカー19.6%、ケミ  
カルタンカー6.4%、その他13.2%と、大き  
く異なっている。

(単位：%，人)

表7	55歳以上の身の処し方					合計	実数
	現役で働く	賃金次第で働く	年金受給する	その他	無回答		
現在年齢							
29歳以下	19.5	34.1	17.1	17.1	12.2	100.0	41
30-39歳	30.3	31.9	17.6	8.4	11.8	100.0	119
40-44歳	35.2	38.3	15.6	6.3	4.7	100.0	128
45-49歳	38.4	31.9	16.7	7.2	5.8	100.0	138
50-54歳	49.0	27.4	11.5	5.7	6.4	100.0	157
人材センター							
登録もいい	36.9	42.1	9.9	7.3	3.9	100.0	233
登録しない	44.4	14.3	31.7	6.3	3.2	100.0	63
どちらとも	39.7	30.4	14.3	8.9	6.8	100.0	237
無回答	22.0	18.0	24.0	4.0	32.0	100.0	50
合計	37.6	32.2	15.3	7.5	7.4	100.0	583

③ 乗組員に知合いの有無(表略)

ぜひ、いて欲しい10.8%、いれば、なおよい42.6%、いなくてもよい38.3%となっている。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員の比率は、登録したくない船員に比べ、ぜひ、いて欲しいの比率が高い。

④ 雇われ方(表略)

期間を問わず、雇われていたい41.6%、その都度、期間を定めて雇われたい40.4%、その他3.3%、無回答14.7%となっている。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員の比率は、登録したくない船員に比べ、期間を問わず、雇われていたいの比率が高い。

員に比べ、期間を問わず、雇われていたいの比率が高い。

⑤ 年間希望乗船回数、日数(表8-1, 8-2)

年間希望乗船回数平均4.2回となっている。そのばらつきは大きい。この現役船員の希望回数は、下船交代要員の実態3.6回を、若干、上回る。

雇主との地縁関係別では、同一市町村の船員の平均5.4回は、ちがう県内の船員の3.8回に比べ、かなり多い。

年間希望乗船日数は、平均148.7日となっている。そのばらつきは大きい。この現役船員の希望日数は、すでにみたように、下船交代

(単位: %, 人, 回)

表8-1	年間希望乗船回数							合計		
	1回	2回	3回	4回	5-9回	10回以上	無回答		実数	
雇主との地縁関係	同一市町村	1.4	6.4	14.9	3.5	22.7	10.6	40.4	100.0	141
	同一県内	1.2	11.0	19.0	8.6	12.9	7.4	39.9	100.0	163
	ちがう県	2.9	11.8	27.7	12.2	13.2	3.2	29.0	100.0	476
	無回答			37.5	12.5			50.0	100.0	8
人材センター	登録もいい	2.0	10.4	29.8	10.4	18.7	7.0	21.7	100.0	299
	登録しない	6.2	14.4	21.6	10.3	15.5	2.1	29.9	100.0	97
	どちらとも	1.9	12.1	23.9	11.8	14.0	6.1	30.3	100.0	314
	無回答			2.6		1.3		96.2	100.0	78
合計	2.3	10.5	23.7	9.9	14.7	5.3	33.5	100.0	788	

(単位: %, 人, 日)

表8-2	年間乗船希望日数								合計			
	-14日	15-29日	30-44日	45-59日	60-74日	75-89日	90-104日	120日-	無回答		実数	
人材センター	登録もいい	.7	1.7	4.7	1.0	5.7	1.3	19.7	55.2	10.0	100.0	299
	登録しない	1.0	3.1	3.1	1.0	14.4	2.1	19.6	39.2	16.5	100.0	97
	どちらとも	1.3	3.2	6.1	1.0	7.3	2.2	16.2	42.7	20.1	100.0	314
	無回答							2.6	3.8	93.6	100.0	78
合計	.9	2.3	4.6	.9	6.9	1.6	16.6	43.1	23.1	100.0	788	

代要員の実態106.7日を、かなり上回る。

なお、希望乗船日数148.7日は、週48時間制のもとでの所定労働日数約302日の約2分の1に当たる長さである。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員の比率は、登録したくない船員に比べ、年間希望乗船回数、日数は、いずれも長い。

⑥ 希望月額賃金（表9）

平均43.7万円となっている。この希望賃金は、すでにみたように、現役船員の年間賃金収入543.5万円を単純に12か月で割った、月額賃金45.2万円とほぼ同じである。また、それは下船交代要員の実態27.8万円の約2倍である。

年齢別では、60歳以下の船員はそれ以上に比べ、若干、高めの希望となっている。なお、55-59歳は44.5万円、60-64歳37.5万円となっている。

人材センター登録意志別では、登録してもいいとする船員と登録したくない船員の、希望月額賃金はまったく同じである。

⑦ 人材活用センターへの登録意志（表10）

登録してもいい37.9%、登録しない12.3%、いまは、どちらともいえない39.8%となっている。

年齢別では、年齢が低い層は高い層に比べ、登録してもいいの比率が、若干、高い。55歳以上の登録してもいいの比率は、約30%にとどまり、平均を下回る。

職種別では、職員が部員に比べ、登録してもいいの比率が、若干、高い。居住地別では、登録してもいいの比率が高いのは東北、中部、それが低いのは関東となっている。雇主との地縁関係別では、ちがう県内の船員の登録してもいいの比率が41.8%と、他に比べ、かなり高い。

（単位：％、人、円）

表9	希望月額賃金										合計		
	-9万円	10万円-	15万円-	20万円-	25万円-	30万円-	35万円-	40万円-	45万円-	50万円-	無回答		実数
現在年齢													
29歳以下		2.4		2.4	7.3	12.2	17.1	9.8	7.3	22.0	19.5	100.0	41
30-39歳		.8			1.7	5.9	13.4	24.4	5.0	28.6	20.2	100.0	119
40-44歳		1.6	.8	1.6	.8	6.3	10.2	20.3	10.9	34.4	13.3	100.0	128
45-49歳	.7		.7	.7	4.3	8.7	5.8	18.1	15.9	29.0	15.9	100.0	138
50-54歳			1.3	1.3	.6	6.4	10.2	24.2	8.3	35.0	12.7	100.0	157
55-59歳		.9	.9	1.7	1.7	5.2	8.7	18.3	11.3	33.0	18.3	100.0	115
60-64歳	3.0		3.0	6.1	6.1	6.1	6.1	24.2	3.0	18.2	24.2	100.0	33
65歳以上			11.1	11.1		11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	100.0	9
無回答					4.2	8.3	14.6	16.7	22.9	8.3	25.0	100.0	48
人材センター													
登録もいい	.3		.7	1.0	1.3	8.7	10.0	21.1	13.7	36.8	6.4	100.0	299
登録しない		2.1	1.0	1.0	2.1	6.2	9.3	25.8	9.3	29.9	13.4	100.0	97
どちらとも	.3	1.0	1.3	2.2	4.1	7.0	13.1	21.7	10.5	29.3	9.6	100.0	314
無回答						1.3		5.1	1.3		92.3	100.0	78
合計	.3	.6	.9	1.4	2.4	7.0	10.2	20.3	10.7	29.3	17.0	100.0	788

(単位：％、人)

表10	人材センター				合計	実数
	登録も いい	登録し ない	どちら とも	無回答		
現在年齢						
29歳以下	29.3	7.3	46.3	17.1	100.0	41
30-39歳	43.7	10.9	37.0	8.4	100.0	119
40-44歳	41.4	10.9	42.2	5.5	100.0	128
45-49歳	42.0	11.6	37.0	9.4	100.0	138
50-54歳	36.9	10.8	43.9	8.3	100.0	157
55-59歳	31.3	18.3	38.3	12.2	100.0	115
60-64歳	30.3	18.2	39.4	12.1	100.0	33
65歳以上	22.2	22.2	33.3	22.2	100.0	9
無回答	37.5	10.4	35.4	16.7	100.0	48
職種						
船長航海士	43.1	13.8	33.6	9.5	100.0	283
機関長機関士	40.3	12.0	40.7	7.0	100.0	258
甲板部員	30.4	10.9	46.4	12.3	100.0	138
機関部員	30.2	7.0	48.8	14.0	100.0	43
司厨部員	29.4	9.8	43.1	17.6	100.0	51
その他	42.9	14.3	42.9	10.0	100.0	7
無回答		37.5	50.0	12.5	100.0	8
居住地						
北海道	47.1	11.8	29.4	11.8	100.0	17
東北	54.9	9.8	28.0	7.3	100.0	82
新潟	28.6		57.1	14.3	100.0	7
関東	25.0	17.5	52.5	5.0	100.0	40
中部	44.2	11.6	37.2	7.0	100.0	43
近畿		22.2	77.8		100.0	9
神戸	10.5	10.5	42.1	36.8	100.0	19
中国	36.5	13.5	40.4	9.6	100.0	52
四国	34.0	15.6	38.8	11.6	100.0	147
九州	39.0	11.5	40.2	9.3	100.0	356
無回答	31.3		56.3	12.5	100.0	16
雇主との 地縁関係						
同一市町村	33.3	11.3	41.8	13.5	100.0	141
同一県内	31.3	16.0	41.1	11.7	100.0	163
ちがう県	41.8	11.6	38.7	8.0	100.0	476
無回答	25.0		50.0	25.0	100.0	8
合計	37.9	12.3	39.8	9.9	100.0	788

## F まとめ

調査目的に則して、中高年齢船員の雇用の促進とその機構としての人材活用センターを念頭におきながら、若干のまとめを行なう。

### 1 下船交代要員の特徴

中高年齢船員の雇用の一形態である下船交代要員として働いている船員には、どのような特徴があるか。すでにみたように、その該当者は28人と少ないので、回答のばらつきが大きい。したがって、確かな特徴とはいえない

いが、一応、以下の通りである。

- ① 55歳以上が過半を占めるが、それ以下の船員も少なくない。
- ② 雇主は、同一市町村や同一県内よりも、ちがう県が多い。
- ③ 交代要員となった理由は、主として船主に頼まれたからである。
- ④ 年間の乗船回数は3.6回、乗船日数は106.7日であり、かなり重要な乗船機会となっている。
- ⑤ 年間賃金226.4万円、月間換算賃金27.8

万円は、現役船員の約2分の1となっている。

- ⑥ 交代要員として働くのは、主として生活費やこづかいをえたいからである。

## 2 就業意欲の高い船員の特徴

現役船員にあって、人材活用センターに登録してもいいとする船員(以下、登録希望船員と呼ぶ)を、今後とも、就業意欲の高い船員とみなし、それら船員が人材活用センターに登録しないとする船員に比べ、どのような特徴をもっているかをみると、次の通りである。

- ① すでに年金を受給している船員のうち、登録希望船員の年金収入はかなり低い。
- ② 登録希望船員の乗船時の重要視項目に関する平均得点は、若干、高く、船舶や船主の選り好みはあまりない。
- ③ 登録希望船員の内航職業に関する満足度は、若干、低い。
- ④ 内航職業の継続意思における登録希望船員の当面、船員を続けるとする比率は高い。
- ⑤ 近いうちにやめるとした船員のうち、登録希望船員の再度、内航船員として働く意志は強い。
- ⑥ 当面、船員を続ける理由における登録希望船員の働かないと生活できないとする比率は高い。
- ⑦ 55歳未満の船員が55歳以上になったときの身の処し方における登録希望船員の賃金次第で働くの比率は高い。
- ⑧ 55歳以上の船員が年金を受給していない理由における登録希望船員の年金だけでは暮らしていけないからの比率は高い。
- ⑨ 老齢厚生年金を受給しながら働く場合、登録希望船員の乗組員に知り合いがぜひ、

いて欲しいの比率は高い。

- ⑩ また、その場合、雇われ方における登録希望船員の期間を問わず雇われていたいの比率は高い。

- ⑪ また、その場合、登録希望船員の年間の希望乗船回数や日数はいずれも長い。希望月額賃金は、同額である。

## 3 老齢厚生年金を受給しながら働く条件

現役船員が、老齢厚生年金を受給しながら働く場合、その条件をどのように考えているかについてみると、次のようになる。

- ① どの船主でもよいが、近隣にいれば、それに雇われたい。
- ② 主として、貨物船や砂利専用船に乗船したい。
- ③ 乗組員に知合いはいたほうがよい。
- ④ 期間を問わずあるいはその都度、期間を定めて雇われる。
- ⑤ 年間の希望乗船回数は約4回、乗船日数は約150日である。
- ⑥ 希望月額賃金は、現役船員と同額の約45万円を望む。

## 4 若干の結語

最後に、現役船員が中高年齢者となって、老齢厚生年金を受給する、しないはさておき、就業する場合のプロフィールは、賃金と年金をトレードオフの関係におきながら、年間収入を引き上げることを目指して、雇われる船主はどの地域でもよいが、船主、さらに乗組員とのあいだに地縁関係があればさらによく、乗船する船舶は貨物船が望ましく、現役船員と同額の賃金であれば、半年くらいは、雇われてもよいということになるろう。